

## 「主の晩餐」

2022年06月08日

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してそれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これは私の体である。」また、杯を取り、感謝を献げて彼らに与えられた。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは多くの人のために流される、私の契約の血である。よく言うておく。神の国で新たに飲む日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」（マルコ福音書14章22節～25節）

主イエスと弟子たち一同は、用意された二階の広間で「過越の食事」を始めた。過越の食事には6品が用意される。①小羊の肉。出エジプトを決定的にしたのは主の過越であった。イスラエル人は小羊を屠り、その血をイスラエル人の家の柱と鴨居に塗った。肉は火で焼いて食べた。主は、血の塗られた家を過越し、塗られていないエジプト人の家に入り、初子を、捕虜や家畜の初子を含め、ことごとく打たれたと書かれている。この主の過越しにファラオは降参し、エジプトから出て行くことを許した。この記述が歴史的事実とするならば、これはテロリズムであろう。主ご自身が人の命を奪うことはない。奪ったのは、奴隷の圧迫に耐えていたイスラエル人がテロを起こし、初子を殺害したのである。出エジプトはテロによって、可能になった史上初の出来事と理解するのが正当であろう。②種入れぬパン。醗酵させずにすぐ焼き、栄養価は同じだが、嵩は小さくて持ち運びにも好都合である。③ぶどう酒。水で割って、40%にしたぶどう酒を大きな杯に入れて、これを回し飲みした。④苦菜を集めたサラダのようなもの。ワサビ、キクニガナ、レタスなどで、エジプトの奴隷生活の苦さを想起するものであった。⑤ハロシエスと呼ぶ練物。リンゴ、ナツメ、ザクロなどを混ぜた練物で、エジプトで煉瓦を練って造った時の苦労を想起させるものであった。⑥塩水。イスラエル人が流した涙と汗、そして紅海の割れた海水を想起するものであった。これらの6品は、奴隷の苦しみ、出エジプト時の苦労、そして、解放された喜びを追体験するための食事である。彼らは、先祖への敬意と感謝を込め、神を賛美して、この過越の食事を厳格に守ったのである。

一同が食事をしている時、主イエスはパンを取り、祝福してそれを裂き、弟子たちに与えて、「取りなさい。これは私の体である」と言われた。また、杯を取り、感謝を献げて彼らに与えられた。弟子たちは皆、杯から回し飲みした。その時、主イエスは言われた。「これは多くの人のために流される、私の契約の血である。よく言うておく。神の国で新たに飲む日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」弟子たちは、主イエスの言われる通り、パンを食べ、ぶどう酒を飲んだ。しかし、この時、主イエスの言葉を理解した者はいなかった。主イエスの十字架の死と三日目の復活を経験し、赦しの福音を受け止めた初代教会の信徒たちが「主の晩餐」を記念し、「パンを裂く」という言葉で復活の主を賛美する礼拝の形式を整え、「聖餐式」を生み出していった。パンは十字架で裂かれた主イエスの肉で、ぶどう酒は十字架で流された契約の血である。エレミヤは罪の赦しの「新しい契約」が実現すると預言したが、その預言が、主イエスの十字架によって成就した。パンを食べ、ぶどう酒を飲む、見える、また味わえる形の聖餐式によって、罪の赦しを確認する。教会は「主の晩餐」において語られた主イエスの言葉を、このように解釈し、受け止め、喜びの聖礼典として継承してきたのである。